2022.04

2021 年度国連ユースボランティア派遣者 体験談

氏名： 清澤 風歌 （ KIYOSAWA Fuka ）
学部・学科　　： 観光学部　観光学科
派遣年度・年次 ： 2021 年度派遣（派遣時 4 年次）
派遣地域　　： タイ（バンコク）
派遣先機関　　： 国連常駐調整官事務所(UNRCO)
オンライン活動期間： 9 月～12 月／現地活動期間： 12 月～1 月

◇参加のきっかけ、目標を教えてください

以前から国際協力という分野には関心があり、大学で専攻している観光学でも観光開発の持続可能性やコミュニティのエンパワーメントについて扱う講義には積極的に参加していました。講義だけではなく、それまでの大学生活で様々な地域に旅行して現地の暮らしを体験していたり、渡航先で青年海外協力隊の仕事を身近に感じていたりしていたのがこの分野への思いを高める要因になっていたと思います。

このプログラムに応募する直接的なきっかけとなったのは、友人からの後押しだったように思います。その時がちょうど大学への応募期間だったので、急いで書類やエッセイを書いて提出したのを覚えています。関心があるとはいえ、当時国連を身近に感じたことは一度もありませんでした。そのため、「自分自身が 1 人の当事者として高い目的意識をもちながら活動に取り組むこと、多くを学び吸収すること」を目標に参加しました。

◇派遣された機関について、また今回携わった業務について教えてください

タイの国連常駐調整官オフィス(UNRCO)は、タイにある 21 の国連機関が主導する開発プログラムを統括し、関係機関との調整や国レベルでの開発分野における国連システムの意思決定をおこなっています。バンコクに本部を置くアジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)とは密に連携しながら活動にあたっています

私はコミュニケーションズアシスタントとして、上司と共に広報・啓発活動に従事しました。活動中は UNRCO が管理する国連タイの SNS とウェブサイトを運用しており、常駐調整官(RC)が出席する会議やイベントのレポート掲載、各国連組織が発信するタイに関わるニュースやプレスリリースの拡散を日常業務としていました。この他、国連デーや国際女性デーといった組織を横断して実施されるグローバルキャンペーンや刊行物がある際には、情報を統括したりローカライズさせたりする業務にも携わりました。

◇印象に残っている活動を教えてください

任期開始後 4 ヶ月近くを日本からリモートで活動していたので、現地渡航後にフィールドビジットに同行させていただいたり、他の UNV とのミートアップを企画したり、人と直接会うことができた活動は概して印象に残っています。

特に、21 の国連諸機関からなるタイ国連国別チームとタイ政府による国連持続可能な開発協力枠組み(UNSDCF)の調印式は初めて国連スタッフと対面できた場でした。入場者の制限をおこなっていたので限られた人にしか会うことはできませんでしたが、広報活動に携わるにあたり、連日活動をフォローしていた各組織の駐在代表の方達と同じ場にいるというのは感慨深かったです。また、任期を通してこの枠組みの作成過程や調印式開催に伴う会議に同席し、いかに多くの関係者が時間をかけて作っていくのかを実感していたので、実際に完成して公にされる瞬間に立ち会えたという意味でも印象に残っています。

◇活動を通して、特に国際協力に関して、どんな学び・知見を得ましたか

国連がいかにグローバルな組織であるか身をもって実感したと同時に、日々どれだけ多くの関係者と外交的なやりとりが行われているのかを学びました。例えば前者であれば、世界各地で様々な分野の専門家が働いているという多様性から、後者は異なる優先事項を持つ各国政府や開発銀行とのミーティングに同席することで感じました。どの組織や団体もそれぞれ違った専門性や予算をもっているので、RCO が担うコーディネーション業務はインパクトを高め調整の取れた対応をするためにとても重要であると感じました。

◇自身の考え方やスキルに関して成長や変化があれば教えてください

活動開始時は右も左もわからない状態だったので、何をしたらいいのか分からない、誰に何を聞いたらいいのかも分からないという状況でした。広報素材をつくるというタスクがあったとしても、予算申請の手順、ドキュメントがどこにあって誰に提出するのか、予算の妥当性の証明の方法など 1 から 10 まで聞かなければ何も進められず、自分がこなせる業務の幅やスピードに対して気後れしていました。

しかし、このような苦労があったからこそ、メールを待つ間に普段国連で使われるような文章構成の仕方や写真素材を勉強してストックしたり、効率化につながるようにソーシャルメディアのアカウントリストを作ったりといったその時できることを自分で見つけてするという姿勢が成長したと思います。

◇国連ユースボランティアでの経験を今後どのように活かしていきたいと思いますか。

まだ進路は決まっていませんが、大学院に進んでコミュニティベースドツーリズム(CBT)や持続可能な観光のマネジメントについて勉強したいと思っています。RCO では国レベルでの政策やプロジェクトについて扱うことが多かったのですが、そこで学んだ気候変動のようなグローバルな課題に対するアプローチや、どのように市民や他のステークホルダーをまきこみ取り組んでいくのかという視点は今後観光をまなざす上で自分の視野を広げる重要な観点になると思っています。

また、今後も柔軟性や行動力を活かして自分ができるボランティア活動を続けていきたいと思っています。

◇参加を考えている学生へのメッセージ

ホスト機関とのインタビューでは、大学生でありながら様々な分野の経験をしていること、質問の意図を汲み取って返答をしていることなどを評価していただきました。アサイメントタイトルでもあったコミュニケーションに関しては、テクニカルな質問や具体的な経験について詳しく聞かれましたが、その他は回答に自由度があるオープンな質問が多かったように思います。業務指示書(DoA)を正確に理解し、自分の経験と結びつけることが重要だと感じました。

自分の語学力、専攻分野との齟齬、選考にかかる時間、コロナの状況など応募を躊躇う不安な要素もたくさんありましたが、たくさんの方にサポートしていただいたおかげで無事活動を終えることができました。学部生でありながら専門的な知識をもつスタッフとともに活動ができるとても貴重な機会だと思うので、迷っている方にも是非挑戦してほしいです。

以上